電子図書館LibrariE　使い方ガイド

1　電子図書館サービスLibrariE（ライブラリエ）とは

LibrariEは「いつでも」「どこでも」利用できる電子図書館サービスです。
スマートフォン、タブレット、PCなどご自身の端末で自由に利用できます。

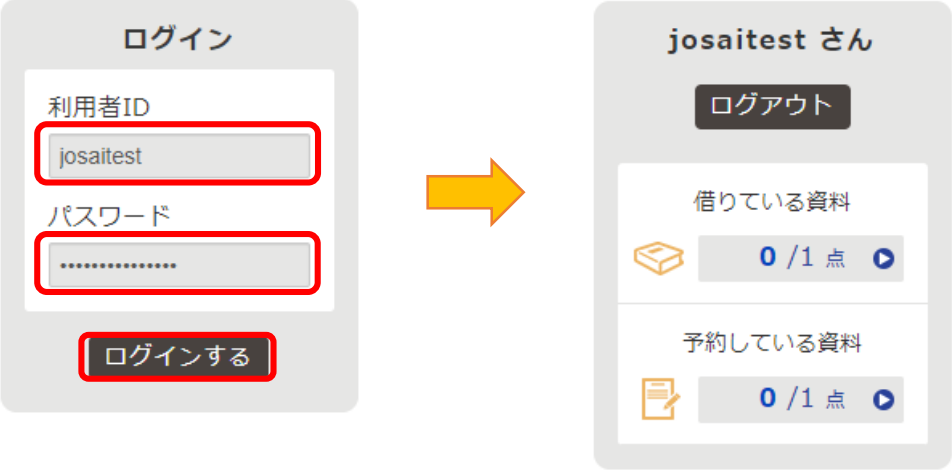
インターネットに接続された環境で、電子図書館にアクセスし、簡単な操作で貸出、試し読み、予約をすることができます。

ぜひ、電子図書館を積極的に使ってみてください。

2　電子図書館システムにログインする

https://www.d-library.jp/josai/

WebClassのIDとパスワードを入力して「ログインする」ボタンを押してログインします。



3　電子書籍を検索する

電子資料を検索するには検索ボックスにキーワードを入力して「検索」ボタンを押します。
※書名や著者名で検索してみてください。

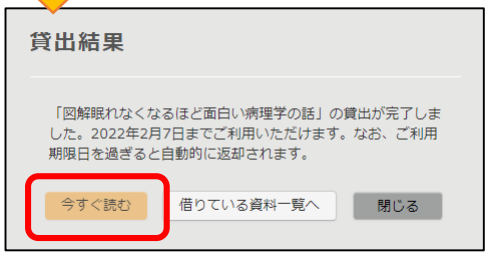
より細かく絞り込むには「詳細検索」を利用します。

「特集」や「ジャンル」から読みたい本を選ぶこともできます。

【特集】

【ジャンル】

4　電子資料を借りて読む



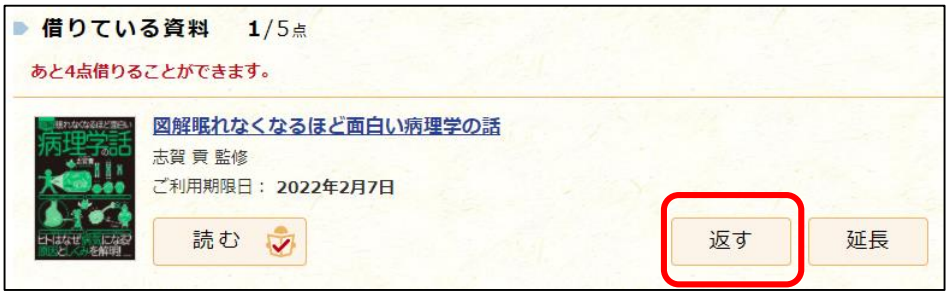
読みたい電子資料の「借りる」ボタンを押します。

貸出完了画面が表示されますので、すぐに読む場合は「今すぐ読む」ボタンを押します。
画面で矢印の出る方向で読み進めてください。
ブラウザのウィンドウを閉じれば、終了となります。

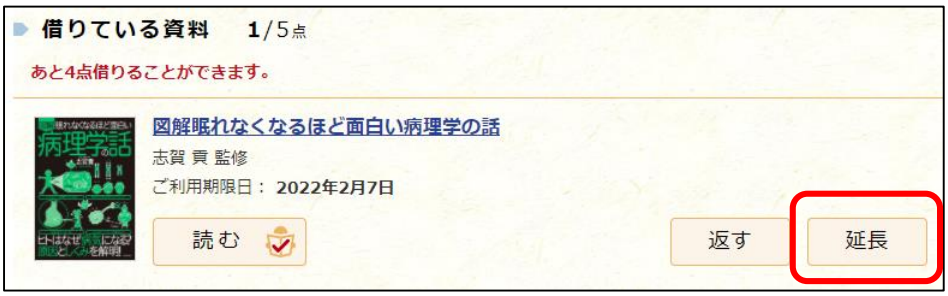
※次回閲覧時は、続きから表示されます。

5　電子資料を返却する・貸出延長する

電子資料は貸出期限が終了すると自動的に返却されます。
貸出期限以前に返却する場合は、
「マイページ」に移動して「返す」ボタンを押します。

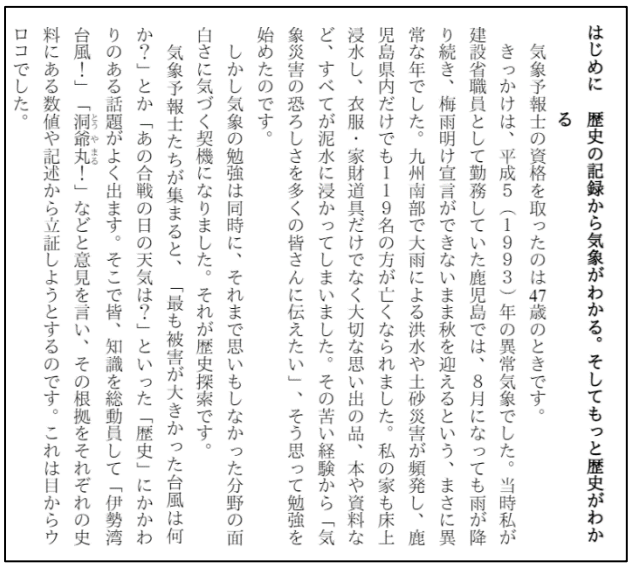


「延長」ボタンを押すことで貸出延長も可能です。
※予約の方がいない時一回のみ延長が可能です。



6　電子資料を試し読みする

資料が貸出中の場合、試し読みすることができます。始めから全体の10%程度試し読みができます。



はじめに　歴史の記録から気象がわかる。そしてもっと歴史がわかる

気象予報士の資格を取ったのは47歳のときです。

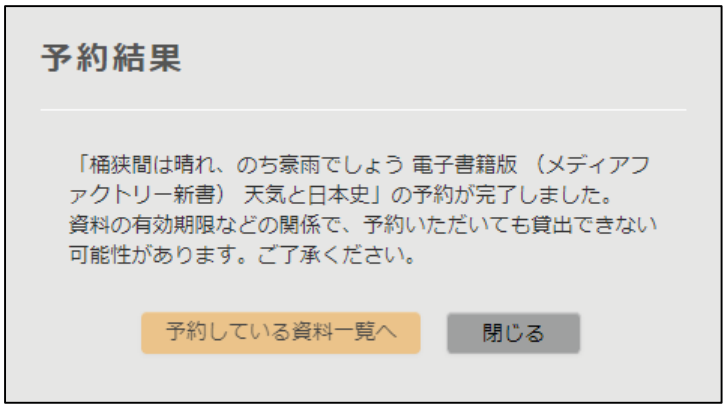
きっかけは、平成５（１９９３）年の異常気象でした。当時私が建設省職員として勤務していた鹿児島では、８月になっても雨が降り続き、梅雨明け宣言ができないまま秋を迎えるという、まさに異常な年でした。九州南部で大雨による洪水や土砂災害が頻発し、鹿児島県内だけでも１１９名の方が亡くなられました。私の家も床上浸水し、衣服・家財道具だけでなく大切な思い出の品、本や資料など、すべてが泥水に浸かってしまいました。その苦い経験から「気象災害の恐ろしさを多くの皆さんに伝えたい」、そう思って勉強を始めたのです。

しかし気象の勉強は同時に、それまで思いもしなかった分野の面白さに気づく契機になりました。それが歴史探索です。

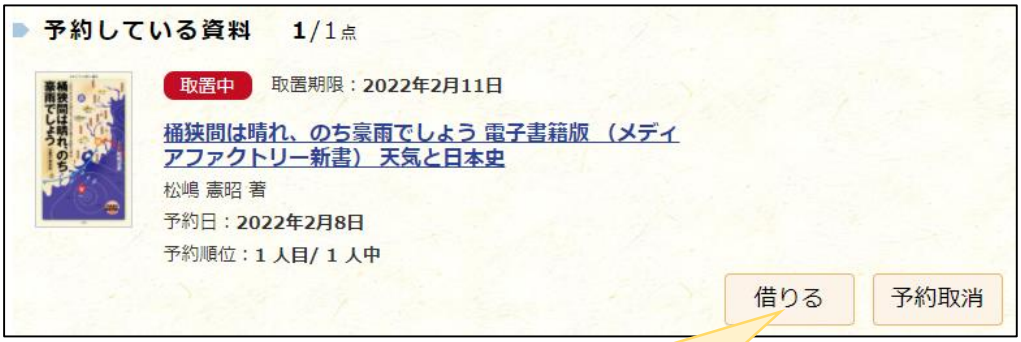
気象予報士たちが集まると、「最も被害が大きかった台風は何か？」とか「あの合戦の日の天気は？」といった「歴史」にかかわりのある話題がよく出ます。そこで皆、知識を総動員して「伊勢湾台風！」「洞爺丸！」などと意見を言い、その根拠をそれぞれの史料にある数値や記述から立証しようとするのです。これは目からウロコでした。

7　貸出中の電子資料を予約する

資料が貸出中の場合、予約をすることができます。



予約している資料が利用できるようになるとトップ画面にメッセージが表示され、取り置き期間中に貸出を受けることができます。

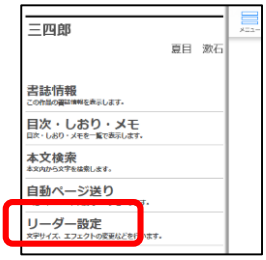


借りるボタンを押した後の操作方法は、「5 電子資料を借りて読む」と同じです。

8　ビューワ設定を変更する

閲覧中に画面左上をクリックすると設定変更画面が表示され、設定を変更することができます。

（文字サイズ最大化および色反転の例）



設定内容を反映させるには、チェックボタンを押します。

※設定を元に戻す際は、上記手順を再度おこなって、再設定ください。